

*iHCl* 2.0 通信アダプタ実装  
提案依頼書  
(Request for Proposal)

2018年2月20日

ものづくりAPS推進機能 (APSOM)

MESX-JP

# *iHCl* 通信アダプタについて

## 1. *iHCl* 通信アダプタとは

- 大規模な情報システムを構築する場合、いくつかのサブシステムに分離し、それらの対話用を通して目的の大きな機能を実現する方法が考えられます。
- *iHCl* 通信アダプタは、こうしたサブシステム間を有機的に接続するための言語とプロトコル「*iHCl*※」を、既存のサブシステム（仕様書では「MSU」と呼んでいます）が容易に使用できるように、既存サブシステムに付属して動作するソフトウェアです。
- 既存のサブシステムとの内部的なデータの授受と、サブシステム間の共通言語である *iHCl* へ/からの翻訳と通信制御を行います。
- 詳しくは、別紙1「*iHCl* インタフェースモジュール仕様書」および別紙2「生産管理のための階層間システム連携—階層間連携言語(*iHCl* 2.0)によるメッセージとプロトコル」をご参照ください。

※ *iHCl*; inter-Hierarchical Communication Language

# 提案依頼事項

1. 別紙1「*iHCl* インタフェースモジュール仕様書」に基づき通信アダプタを作成いただくにあたり、次の事項についてご提案ください。

- 費用の見積
  - ソフトウェア式の作成費用（試験成績書および簡単な実装設計説明書を含む）
  - 上記作成に付帯する作業（打ち合わせ、文書作成）に関わる費用
- 納品日
  - 弊機構の希望納期は、開発委託契約締結後3か月を想定しております。

なお、見積条件は次のとおりです。

- 品質基準：MSUから1つのRequestメッセージを送信するまでのオーバーヘッド時間を0.5秒以内とします。なお、複数の注文が同時並行的に送信を要求します。
- レビュー：必要に応じて設計内容のレビューを行います。
- 納品いただくもの：コード一式（DB定義含む）、概略実装設計説明書、試験成績書
- 納品物に関する権利：納品物に関するすべての権利は弊機構に属するものとします。
- 通信アダプタ（第1版）のプログラムソースを開示します。
- 保守作業：検収後は瑕疵担保責任を問いません。
- クラウド使用料：お見積りに含めてください。

# 提案依頼事項

## 2. 遵守事項

- 知的財産権を尊重してください。
- ウイルス対策に万全を期してください。
- 本件において、個人情報等の取り扱いはありません。

## 3. 貴社情報をご提示ください。個人事業主の場合は、相当する情報をご提示ください。

- 貴社名，代表者のお名前，所在地（ホームページがあればそのURL）
- 貴社提案責任者のお名前，連絡先
- 貴社契約担当者のお名前，連絡先

# 提案手続き

## 1. 提案書の提出

- 提出期限 **2018年3月20日 16時必着**
- 提出先 **ものづくりAPS推進機構 事務局 山本明人**
- 提出の方法 **電子メール**
- 提出先 **yamamoto@apsom.org**

## 2. 提案の採否

- 採否結果を3月31日までに提案責任者に通知します。

## 3. 本提案依頼に関する問い合わせ

- 次のメールアドレスにお願いします。 **yamamoto@apsom.org**

## 4. 提供資料の取り扱い

- 貴社にて廃却してください。

# 契約事項

## 1. 発注形態

- 開発委託契約書を締結させていただきます。請負契約とします。
- 成果物は提出の都度検収します。
- 最終検収はシステムの引渡後、4週間以内に別紙3「検収テスト仕様書」に基づいて実施し、合否判定し、通知します。不合格の場合の対応は、協議して決めさせていただきます。

## 2. 支払条件

- 検収後請求書をお送りいただき、受領後翌月末に貴社指定口座に振り込みます。

## 3. ソフトウェアに関する権利

- 著作権をはじめすべての権利は弊機構が持ちます。

## 4. その他

- 再委託は認めません。
- 貴社の責によるシステム開発の遅れや品質不適合等によるリスクについては、貴社のリスク負担とします。

# 添付資料

別紙1「*iHCl* インタフェースモジュール仕様書」

別紙2「生産管理のための階層間システム連携—階層間連携言語(*iHCl* 2.0)によるメッセージとプロトコル」

別紙3「検収テスト仕様書」

# APSOMについて

## 1. ものづくりAPSとは

- ものづくりAPSとは、ものづくりに携わる企業が、現場を中心とするさまざまな情報を最大限に活用してトータルな意思決定を的確に行うためのしくみを言います。このしくみを生かして、現場にちらばっている情報や知識が、利益の源泉として生まれ変わることを期待します。

## 2. ものづくりAPS推進機構（APSOM）とは

- ものづくりAPSを実践する製造業やIT企業を応援するNPO法人です。
- 弊機構は、現場の知識とITの知識をどのように融合させるかについて標準的なモデルや方法を提案しています。このような、ものづくりAPSのプラットフォームの上で、さまざまな製造業の業務や、さまざまなITの道具を、現場の進化に応じてダイナミックに組み合わせることができます。
- ものづくりAPS推進機構では、このプラットフォームの国際標準化を進めるとともに、国内の製造業やIT企業が、今後より現場中心の戦略的なしくみを構築することをお手伝いします。
- 詳細はホームページ（<http://apsom.org/>）をご覧ください。